

0-19. 横浜市立3動物園における合同イベント実施報告

○半澤紗由里¹⁾、永井早紀¹⁾、齋藤愛子²⁾、上田佳世³⁾

(¹⁾ 横浜市立野毛山動物園, (²⁾ 横浜市立金沢動物園, (³⁾ よこはま動物園ズーラシア)

横浜市緑の協会は指定管理者として、野毛山動物園、金沢動物園、よこはま動物園ズーラシア（ズーラシア）の3動物園を管理運営しているが、これまで横断的なイベントを実施したことはなかった。そこで、有料の3回連続大人向け教育イベントを企画運営した。各園HP応募フォームからの事前応募で、高校生以上、定員20名とし、抽選した。目的は「3園それぞれの特徴と役割を理解してもらう」、「3園への愛着を深めてもらう」、「3園の相互誘客を図る」の3項目とした。9月には野毛山動物園で「よこはまの動物園入門」というテーマで実施し、野毛山動物園の歴史や時代に合わせた新しい取り組みを紹介した。10月には金沢動物園で「動物園が行う保全活動」というテーマで実施し、外国産の動物と身近な生き物の展示を通じて、両者に対する教育活動や身近な自然に対する環境整備が、すべて保全につながっていることを紹介した。11月にはズーラシアで「動物園で生息環境を感じよう」というテーマで実施し、チンパンジーの森やアフリカのサバンナエリアの見学を通じて、生息環境展示が動物と来園者に与える影響について紹介した。アンケートは、応募時、各回終了時、全体終了時の計5回行った。終了時アンケートの結果、参加者の評価は高く、満足度が94%となるなど、各設問において多くの肯定的な評価を得た。複数の園で連続講座を行うことで、単独で行うよりも多様なテーマを扱うことができるなどのメリットがあった。一方、3園での連続したテーマに意味を持たせ、一つのプログラムとして共通認識を高めるためには、細部まで含めた検討に時間を割く必要がある。広く市民に上記目的を浸透させるためには、継続的な取り組みが必要となる。今後は、視点を変えながら多様なテーマを選択しつつ、3園それぞれの職員のスキルを高め、安定して継続できる体制にすることが課題である。